
グレイの困惑

Mr.あいう

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

グレイの困惑

【Nコード】

N8380H

【作者名】

Mr. あいう

【あらすじ】

宇宙人が地球を侵略しようとする人間をためしに一人連れ去る。だが連れ去った人間はとんでもないことを言い出して・・・

(前書き)

グレイというのは宇宙人のことです。一応。

あるUFOの一室で・・・

「私たちの問いに回答しろ さもなくば 殺す」

機械的且つ高圧的な声が銀色の部屋に響き渡る。

その部屋の中には、人。

「なあゝにゝ私超頭痛いんだけど。てかここどこよ」

と、やる気なさげに答える彼女から察するに、どうやら彼女は彼女の意思でここに来たわけではないらしい。

「んで、なんて？聞こえなかった」

「私たちの問いに回答しろ さもなくば 殺す」

「あっそ、んじゃ殺して」

「・・・・・・・・・・・・・・・・今 言った 言葉を 繰り返せ」

「いやもうきれいさっぱり殺しちゃってって」

「・・・・・・・・・・・・・・・・生命への執着は無いのか」

「ぜんぜん」

「・・・・・・・・・・・・・・・・なぜ死ぬ事を恐れない」

「ん、だってべつにつづって感じだし」

「・・・・・・・・・・・・・・・・質問に答えるだけだぞ」

「うんホントいいから早く殺して」

あるUFOの一室で・・・

「何だあの生物は、冗談みたいには聞こえないぞ」

「どうやら本気のようなです。嘘発見器が反応しません」

「くっそ、なんて生物だ、種族を守るため自ら犠牲になろうというのか」

「・・・・・・・・最終手段です、自白剤を投与しましょう」

「ばっ、そんなことをしたらアレルギー反応で5分以内に死んでしまうぞ」

「やむを得ません。実験体はまた採取しましょう」

「……………よし、自白剤、投与」

あるUFOの一室で……

「ねえ、いつまで閉じ込められてるの？殺さないんだったら出して……」

そのとき、銀色の壁に穴が開き、その穴から霧が噴出してきた。

「なにになに〜毒ガス〜？痛いのはやだよ〜……………は、はうわっつ、ニャ、ニャにこれ……………?」

あるUFOの一室で……

「アルコール500ミリリットルを含む霧だ。もうまともな判断能力は残っていない」

「どうやら、効いてきたようです」

「よし、質問に入れ」

あるUFOの一室で・・・

「私の質問に答えろ」

「う・・・ん？　　いいよ何でも答えてあげるう」

「人の弱点は何だ」

「ジャクテエン？んゝゝとね、心だね。うん」

あるUFOの一室で・・・

「こころ、だと？どういう意味だ？」

「え・・・とですね。つまりこの生物は脳のほかに、もう一つの判断機能があるようでした」

「なるほど、それは体のどの部分だ？」

「いや・・・それが前回の解剖実験ではそれらしい臓器は発見できなかったようです」

「なに？敵の弱点の場所がわからないだと？」

「嘘発見器は反応していません」

「うるさいっ！」

あるUFOの一室で・・・

「ねえ、次の質問まだあ？お姉さん飽きちゃったよお・・・」

「人の好む物はなんだ」

「金！金だよ世の中・・・はあ・・・クスン、うつく、うつう、あつしい・・・」

あるUFOの一室で・・・

「金、とは？」

「万能の判断基準のようですね」

「は？それが好むものというのはどういうことだ？」

「どうやらより価値が高いものを好むようなのですが・・・実はよくわかっていないのです」

「どういうことだ」

「必ずしも価値が高いものを好むのではない。ということなのです。実は、人間を相手に、価値がとも高くとされている移動手段、車と、それほどの価値でないティッシュというものを、街頭で配布してみたのです」

「で、その結果は？」

「ティッシュという物体のほうに人はより興味を示しました、車は誰一人として受け取ろうとしなかったのです」

「は？なんて奇妙な生物だ」

「嘘発見器は反応していません」

「黙れ！」

「大変です！実験体が暴れました！」

「なにっ！」

あるUFOの一室で・・・

「ウワアアアン！何で別れるなんていうんだよう・・・私精一杯アツシに尽くしてきたのに・・・ビエエエン！」

「落ち着け 落ち着け 落ち着け 落ち着け 落ち着け
落ち着け 落ち着け」

「おそろいの携帯だって買ったのに！テレビだって買った！クーラーも！掃除機も！アツシが欲しいだろうなあゝって思うもの全部買ってあげたのにいい・・・アアアアン！」

あるUFOの一室で・・・

「手がつけれません！しかもアルコールを投与してからもう5分を過ぎているのに・・・」

『ウワアアアン！ウワアアアン！』

「どうする！おとなしくさせないとマズイ！」

「振動で、機体にダメージが！」

「平行維持機能、もう持ちません！」

「クソオオオオ・・・おい、マイクを貸せ！」

「はっ、なにを？」

「あの生物を黙らせる！！」

あるUFOの一室で・・・

「ウワアアアン！ウワアアアン！」

「黙れっっっ！！！！」

「・・・ウア？」

「いいかよく聞け、さっきから聞いていると何だ！貴様は！人の癖に人の性質も知らんのか！いいか、人という生物は、ある程度以上の価値になると、それを受け取りたがらないという習性があるんだ

「さっき言っていた・・・アツシ！そうアツシだ！そいつだって、そのような価値の高い代物を強制的に与えられたら嫌がるのは当然だっ！貴様はそんなこともわからないのかっ！」

「！！・・・そ、そうかあ・・・ヒグツ、だから・・・あんなに嫌そうに・・・」

あるUFOの一室で・・・

「よし、あいつを送り返せ」

「いいんですか？そんなことをして」

「ああ、それとこの星を侵略するのはよそう、どうもこの星の連中はわからん」

「ですね」

あるビルの屋上で、靴を脱ぎ今にも飛び降りてしまいそうな格好で、女性が横たわっていた。

「ウウウウウ・・・ウア？ここどこ？確かビルから飛び降りてえ、飛び降りたら落ちるはずが逆にあがって行ってえ、変な銀色のところで目が覚めてえ、それで・・・」

「トゥルルルルル、トゥルルルルル」

「あ、電話だ・・・」

「もしもし？俺、アツシ。あの、ごめん。さっきは悪かったな。別れるなんていって」

「うん、ぜんぜん気にしてないから」

「そ、そうか。てっきり『自殺してやるううう』って叫びながら出て行ったから、気にしてるのかとばかり・・・」

「いや、いいの。それより、私、すぐアツシに物を買っちゃう癖直すね。嫌だったでしょ？」

「いや、俺は別に・・・」

「正直に言って」

「・・・ああ、すごく嫌だった。でも直してくれるっていうなら、これからも・・・」

「うんっ！これからもよろしくねっ！」

(後書き)

まあよくある題材ではありますが、
読んでいただいてありがとうございます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8380h/>

グレイの困惑

2010年10月11日17時14分発行